

2024 年度事業報告書

公益財団法人医食同源生薬研究財団

当財団は、太古より生薬として重宝されてきた農作物や水産物によって人々を元気にし、年をとっても元気澁刺で働ける世に変える、いわゆる「医食同源」の社会実装による新たな社会の構築を目指し、2021 年 4 月 14 日に設立、2022 年 4 月 1 日に公益財団法人の認定を受け事業を行っている。

当財団では、健康に良い、疾患を予防するということが経験的にわかっているものの、その医学的根拠の脆弱性から広い世の中に埋もれてしまっている農水産物由来の食品について、その効果・効能について医学的根拠となる実証的研究を実施・支援し、その結果を広く公知することによって、医食同源の考えに基づく食生活の改善を促進し、もって食を通じた人類の心身の健全な発達や健康の維持に寄与すること、並びに生活習慣病の蔓延による我が国の医療費増大の抑制に、社会実装の実現によって貢献することを事業の目的としている。その目的を果たすべく、2024 年度は財団主導研究、研究助成、貢献者への褒賞、広報活動を実施した。

1 財団主導研究

(1) 健康人を対象とした玄米サプリメントの継続服用による免疫機能および睡眠の質への影響（東北大学との共同研究）

20～64 歳の健康な男女に、1 日 1 回、12 週間、玄米の成分を含有したサプリメントまたはプラセボを摂取してもらい、玄米サプリメントを摂取した群とプラセボを摂取した群の免疫機能や腸内細菌叢の状態、睡眠の質、心身の健康状態や生活の質を比較し、玄米の健康効果を明らかにするだけでなく、その作用機序も解明する。本研究は、2022～2024 年度の予定で行われ、2024 年度はデータ収集及び解析作業を進めた。なお、より詳細な解析を進め、様々な角度から結果を検証するために、2025 年度まで研究期間を延長することとした。

(2) 保育所給食の質が新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ等の感染状況に及ぼす影響（中村学園大学との共同研究）

福岡市内の約 300 の保育所を対象に、主としてアンケート方式で給食内容と新型コロナウイルス感染症等の罹患状況等の情報を収集し、両者の関係を解析する。2024 年度は、研究の最終年度として得られたデータの解析を進めた。

(3) 育種情報インフラを利用した高タンパク質と良食味を兼ね備えた米の育種と利用法の開発（東京農業大学、農業・食品産業技術総合研究機構との共同研究）

日本人の重要な食料である米について、育種情報インフラを利用した高タンパク質でかつ良食味な米の作出及びその利用法の開発を行う。2024 年 2 月から研究を開始。2024 年度は、年度研究計画に即して育種候補米の理化学的評価、高タンパク母本のスクリーニング等を行った。

(4) 代謝性機能障害に伴う脂肪肝（MAFLD）患者を対象とした玄米サプリメント摂取による脂肪肝改善を検証するプラセボ対照二重盲検ランダム化比較試験（神戸大学医学部附属病院との共同研究）

代謝性機能障害に伴う脂肪肝(MAFLD)患者に、1 日 1 回、12 週間、玄米の成分を含有したサプリメントまたはプラセボを摂取してもらい、12 週後の脂肪肝改善効果を評価する。2024 年度は、調査対象者の確保と介入を進めた。

(5) 以上のほか、当財団と包括連携協定を締結した大阪府泉大津市が展開する「食」に関する取組みにおいて、同協定に基づいて健康効果の実証を図るため、住民へのアンケート調査や健康データの分析・解析等を行った。その結果については、論文化（2024 年 12 月掲載）の上、2025 年 1 月に同市と共同記者発表およびニュースリリースを行ったほか、財団 HP に研究成果として公表した。また、熊本県人吉市、沖縄県宮古地区医師会等とも同じような内容の包括連携協定を締結し、同種の取組を進めている。なお、ここで得られたデータ類の蓄積が、財団主導研究の一環であるメタアナリシス手法による研究実施の布石となるものである。

2 研究助成事業

(1) 研究助成

研究助成募集要綱に基づいて公募し、35 件の応募があった。選考委員会での審査を経て、以下 5 件を採択した。

No.	研究課題名	所属・氏名
1	IgA 腎症を予防・治療支援するジャカリン含有食品の開発およびヒト臨床試験による効果検証	三重大学 大学院 工学研究科
		教授 宮本 啓一
2	褐色脂肪組織活性測定と遺伝情報の個人差を利用したシ	東京大学

	カ肉の健康増進効果の検証：ジビエの付加価値強化を見据えて	大学院 新領域創成科学研究科 准教授 中山 一大
3	ポリフェノールが口腔バイオフィルムに及ぼすプレバイオティクス効果に関する in situ 解析	大阪大学 大学院 歯学研究科 助教 朝日 陽子
4	肌荒れに関連する酵素 5 α -リダクターゼを阻害する白米の活性成分の解明	城西大学 薬学部 天然物化学研究室 教授 鈴木 龍一郎
5	慢性便秘症患者に対する納豆の便通改善効果の検証：ランダム化比較試験	大阪公立大学 大学院 医学研究科 消化器内科学 病院講師 沢田 明也

（２）論文助成

論文助成募集要綱に基づいて公募し、第１回は応募がなかった。第２回は１件の応募があった。選考委員会での審査を経て、以下計１件を採択した。

第２回

No.	論文名	所属・氏名
1	加工玄米由来機能性成分によるヒトマクロファージの活性化とミトコンドリアから解糖系へのエネルギー代謝活性シフトの促進	横浜薬科大学 薬学部 臨床薬学科 病態生理学研究室 講師 高梨 馨太

３ 貢献者への褒賞

2023 年度までに褒賞者募集要綱に基づいて公募し、３件の応募があった。審査委員会での審査を経て、2024 年１月に以下の者を受賞者として決定し、下記４の（２）のとおり同年 11 月に褒賞授与式を行った。

No.	内容	所属・氏名
1	エビデンスに基づいた「日本人にとって本当に効果的ながん予防法」の提言を目指し、疫学研究の系統的レビューや大規模コホート研究の統合解析などを通じて、「日本人のためのがん予防法」や「日本人に特有のがんの原因」の解明に尽力。これらの成果を広く社会に実装する取り組みにも大きく貢献	国際医療福祉大学 大学院 医学研究科 公衆衛生学専攻 教授 津金 昌一郎

今回の褒賞事業を踏まえて、当財団としては、当財団及びこの褒賞が社会全般にさらに認知され、広い世の中からより多くの褒賞候補者推薦が寄せられることを目指すため、2024年度においては、下記4の（2）及び（3）に記載したことなど、当財団及びこの褒賞の認知度を高める努力を続けた。

4 広報活動

（1）ホームページでの広報

- ① 代表理事と名誉会長の対談インタビュー「次代を担う子供たちのために、日本の未来のために。」をHP掲載した。
- ② 当財団における研究成果や研究助成情報、シンポジウム・講演会情報などを告知した。

（2）シンポジウム・講演会の開催

「2024 褒賞授与式及び成果報告会」（褒賞事業、研究助成事業）を開催した。

日時 : 2024 年 11 月 8 日（金）15:00～17:00

場所 : ザ・プリンスさくらタワー東京

内容 :

1) 褒賞授与式

褒賞受賞者：津金 昌一郎 氏、

所属 : 国際医療福祉大学大学院医学研究科公衆衛生学専攻 教授

2) 研究助成に関する成果報告会

- ①研究名 : 全身臓器のアセチルコリンバランスに着目した玄米機能成分 γ -オリザノールによる健康向上効果の機序解明

報告者 : 岡本 士毅 氏（2021年度財団研究助成）

所属 : 山口大学 共同獣医学部 准教授

- ②研究名 : 亜糊粉層残存米エキスによる免疫力活性化の検討

報告者 : 高梨 馨太 氏（2021年度財団研究助成）

所属 : 横浜薬科大学 薬学部 講師

- ③研究名 : 高血圧予防における昆布出し殻の活用法の検討

報告者 : 栗原 伸公 氏（2022年度財団研究助成）

所属 : 神戸女子大学 家政学部 教授

（3）メディアの活用

- ① 「2024 褒賞授与式及び成果報告会」の内容を中心にした財団の広告を日本経済新聞に掲載した。

- ② 次世代エイズの活動に興味を持った Nature 誌の取材に積極的に対応した。
その結果、2025 年 3 月発刊の同誌にその内容が掲載された。

以上